

作品名	災い転じて藝となす ～土木と建築による新たな空間提案～	作品番号	1/5
校名	西日本工業大学		
氏名	右田雄大		

災い転じて**藝**となす

～土木と建築による新たな空間提案～

1. 問題提起 - 我々と土木建築 -

「我々の生活を自然の脅威から守る土木建築」

海岸沿いにのびる防潮堤、土砂崩れを防ぐために山を削り固められた斜面地
これらは全て我々の豊かな生活のために建てられ、自然災害から人々や街を守ってきた。
今後多くの災害の危険性を抱える日本においてなくてはならないものとして今もお建設が行われている。

しかし、それらは本当に我々の生活を豊かにするために建てられた存在なのだろうか。

一枚の壁が海と街を分断し、山の斜面地は木々が伐採され、コンクリートによって埋め固められてしまっている。
我々の生活を守る一方で人を寄せ付けず日常生活とはかけ離れた存在となっているのではないだろうか。

そんな非日常的な土木建築を建築のスケールに落とし込み、建築空間として日常の役割の与えることで、人々により身近な存在となる新たな土木景観として提案する。災害に対する機能に限らず、街のコミュニティ機能を担うことで地域活性の拠点・観光の拠点として多くの人々が関わり合う空間を生み出す。

3. 計画内容 - 土木と建築による二つの空間提案 -

Site.1 「防潮堤 × 地域交流施設」

我々のスケールをはるかに超える防潮堤。
防災のために必要なものとは言え、無造作に建ててしまえば一枚の壁によってまちと海は分断されることとなる。

今回の計画では土木建築の大きなスケールは部分的に残しつつ、壁をいくつかの層にすることで人々が入り込む事の出来る建築としての空間を生み出す。

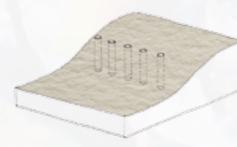


巨大なスケールの土木建築 薄く層にすることで空間をつくる

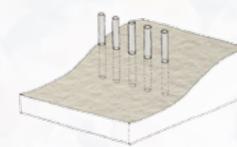
Site.2 「杭工 × 貸しアトリエ」

日常生活でほとんど目にする事のない杭工（抑止杭工）
地すべりの危険性がある地盤を安定させるために定期的に打ち込まれた杭であるが、その規則性を持った杭に建築空間としての可能性を感じる。

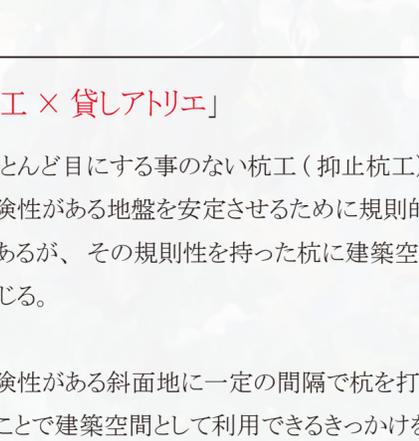
地すべりの危険性がある斜面地に一定の間隔で杭を打ち込み、地上にも出すことで建築空間として利用できるきっかけをつくる。



地盤を支える抑止杭工



地表に持ち上げ 建築の柱として利用



Site 1: 防潮堤 × 地域交流施設 Site 2: 杭工 × 貸しアトリエ

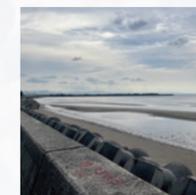
2. 対象敷地 - 自然とアート活動のまち -

「大分県 豊後高田市 尾鷲地区」

近年、移住の需要が高まり豊かな自然を求めて移住してくる人が増加し注目されている町である。そんなこの地を二つの姿に注目して読み解き、災害に対する土木建築と町おこしのアート活動の共存に向けた提案をする。

■災害から見るまちの姿

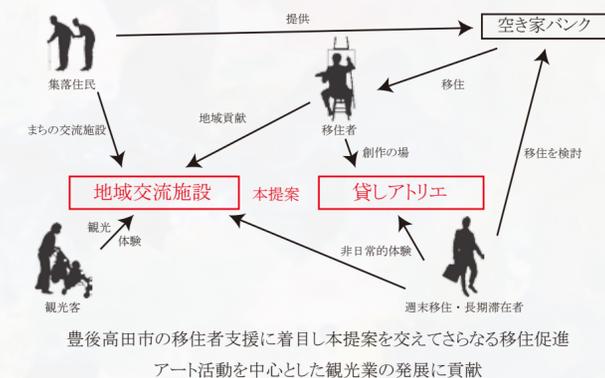
・国東半島特有な尾根と谷が連続する地形で、谷にできる集落では土砂崩れの危険性が高く土砂災害警戒区域に指定されている。
・南海トラフ地震や周防灘活断層地震が想定され、津波に対する対策も検討していかなければならない。



■アート活動から見るまちの姿

・豊後高田市は、町おこしの一貫で自然を活かしたアート活動を行っている。
・地域住民に限らず集落への移住者、観光客といった様々な人々が関わり合って地域活性に取り組んでいる町である。

4. まちとの関係 - 移住プログラムの構築 -



■Site.1 「防潮堤 × 地域交流施設」

作品名	災い転じて藝となす ~土木と建築による新たな空間提案~	作品番号	2/5
校名	西日本工業大学		
氏名	右田雄大		

1.1 計画敷地

「津波に対する土木と建築の空間提案」

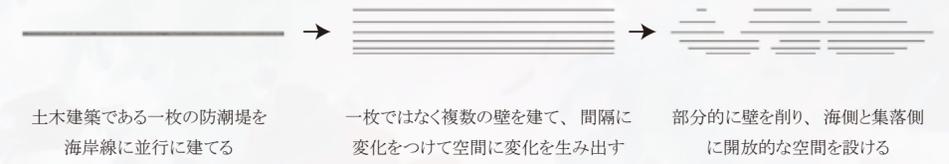
本敷地は海岸線からほど近い位置にあり、現在は太陽光発電システムによる設備が敷かれ人々は立ち入ることができない。津波は集落の目前まで到達すると予想されており、南海トラフ地震や周防灘活断層地震といった大災害による津波も警戒されている。

そんなこの敷地に計画するのは、集落を津波から守る防潮堤としての機能を持つ土木建築と集落の人々とアート活動をする移住者、観光客など様々な人々が利用する作品展示空間を有する地域交流施設である。防潮堤の壁を空間を構成する骨組みとして利用し建築のスケールに近づけて計画することで、人々が交流し多様な関係性を生み出す空間を設計する。



1.2 ダイアグラム

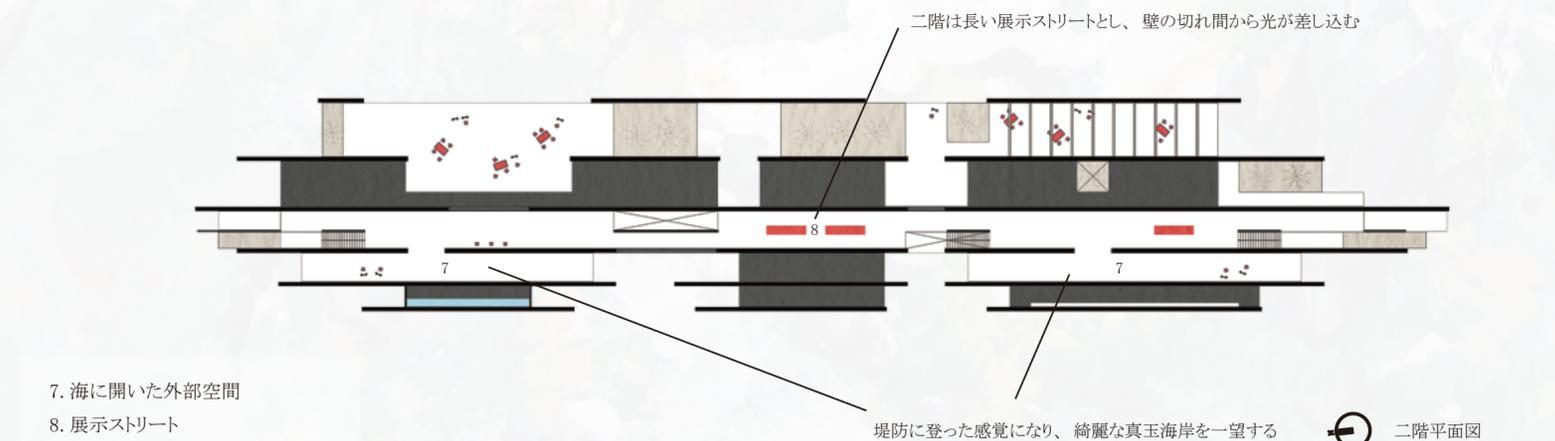
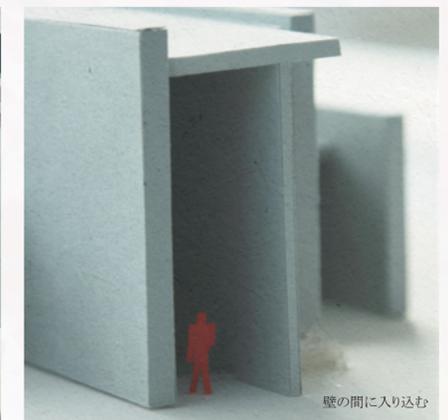
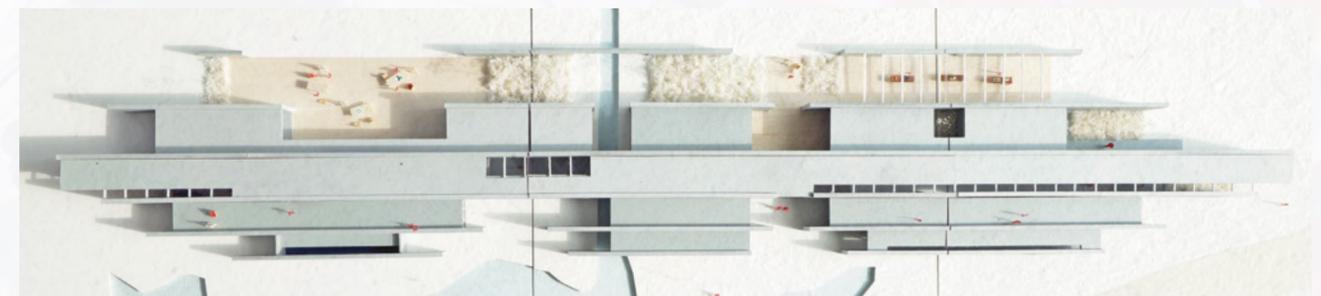
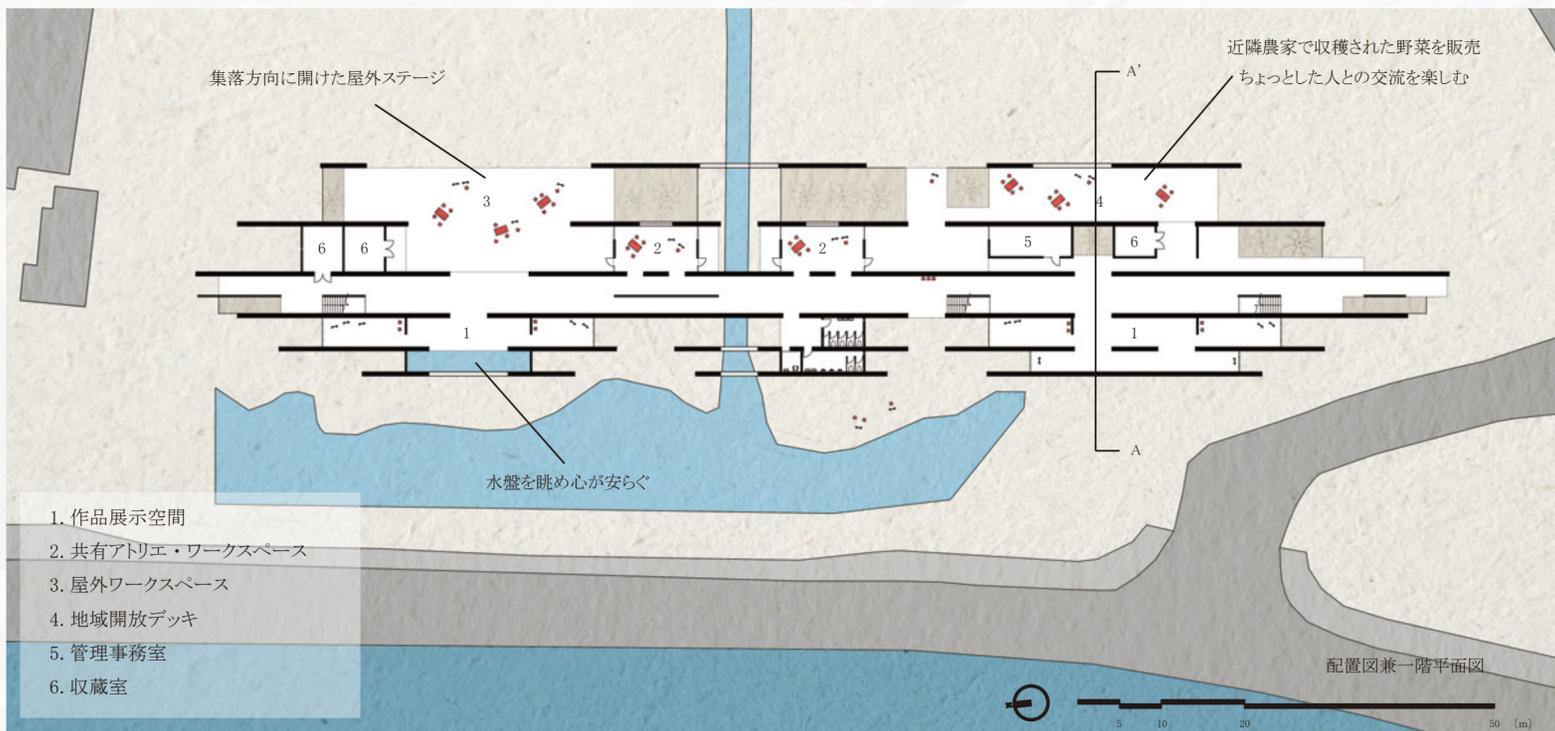
■平面操作



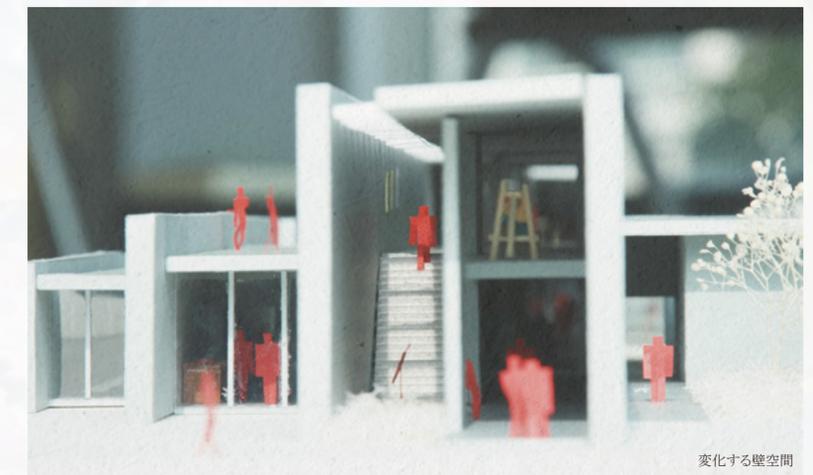
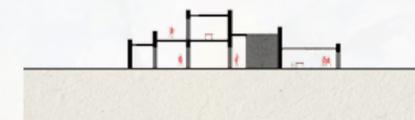
■断面操作



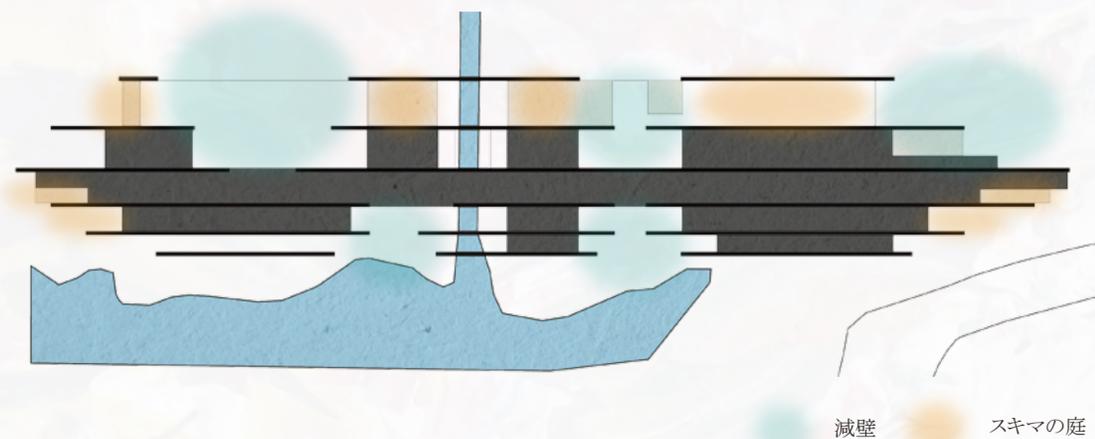
1.3 図面計画



壁の間隔を変化させ空間の変化を感じる



1.4 外部を取り込む操作

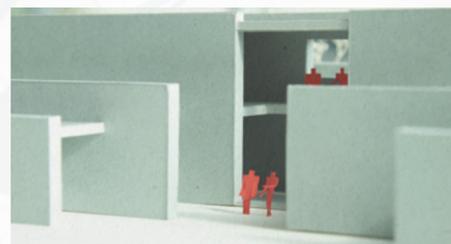


I. 減壁 - 部分的に壁を減らす操作 -

並行に並ぶ6枚の壁を部分的に減らし外部空間を取り込む
この操作により内部だけではなく、周辺環境を取り込みながら外部と繋がるように計画し開放的な空間を作り出す

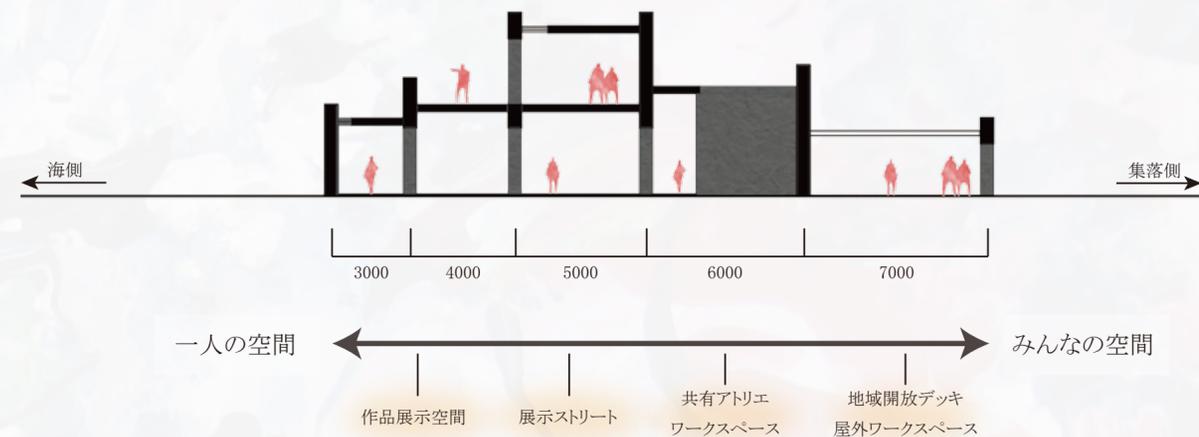
II. スキマの庭 - 壁の隙間の有効活用 -

壁で囲まれた空間はどうしても閉鎖的に感じてしまう
そこで壁の隙間を有効活用し陽の光が差し込む開放的な庭のある空間をつくる



1.5 変化する壁空間

■ 壁の間隔と空間配置



海側から集落側に向けて壁の間隔を変え空間を変化させる

海側の幅が狭い空間にはアート活動でつくられた作品を展示する空間を配置し、一人で集中して展示された作品を観れるように計画する

集落側は海側とは異なり、人々が集まってワークショップを開催したり、共有アトリエで制作活動をしたりと地域交流の場としての機能を配置する

壁の間隔を変化させて空間をつくることで人々の多様な関係性をつくり出す



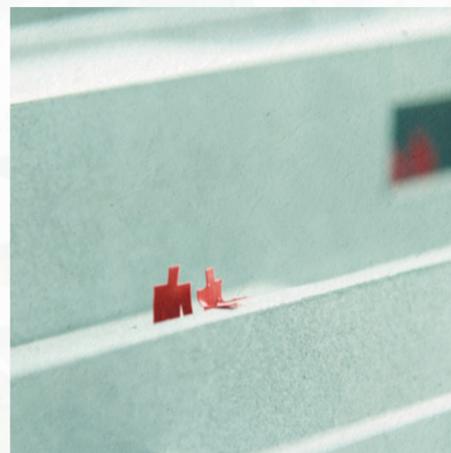
— 水辺で制作中 —

「自分の好きな場所で、好きなアート活動を」
場所を変えることでまた新たな発想が生まれる



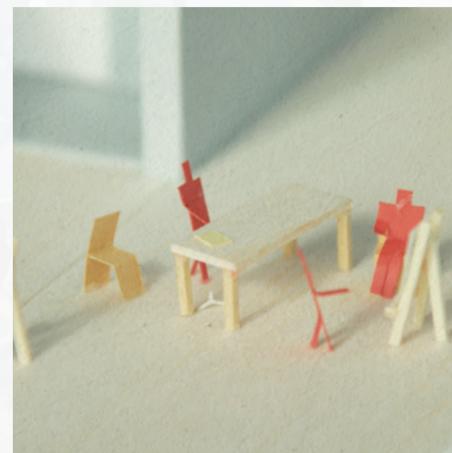
— 光が差し込む —

陽の光が差し込む階段
まるで美術館にきたような体験ができる



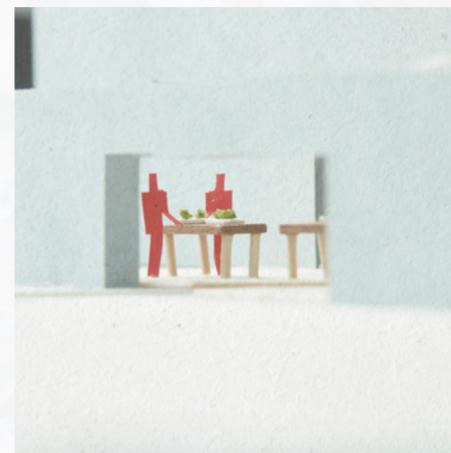
— 「海、綺麗！」 —

堤防からのんびり真玉の海を眺める
夕方には水平線に沈む夕日を眺める



— 「これはどうかな？」 —

話し合いながら制作活動
地域の交流の場に



— まちに開く壁 —

壁に空いた大きな窓
まるで人々の様子を切り取る額縁のよう



— 「今日は〇〇が採れたよ」 —

集落で採れた野菜をおすそ分け
みんなが集まるきっかけをつくる

作品名	災い転じて藝となす ～土木と建築による新たな空間提案～	作品番号	4/5
校名	西日本工業大学		
氏名	右田雄大		



災い転じて**藝**となす

～土木と建築による新たな空間提案～

■ Site.2 「杭工 × 貸しアトリエ」

2.1 計画敷地

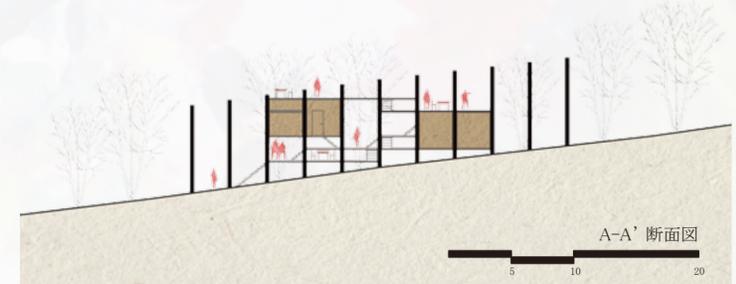
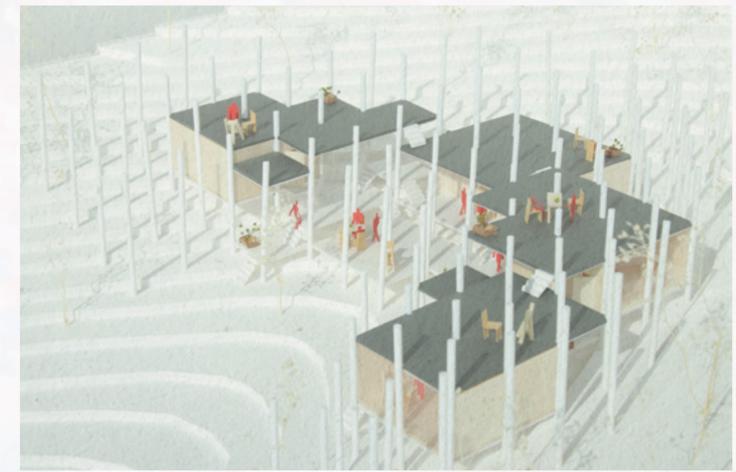
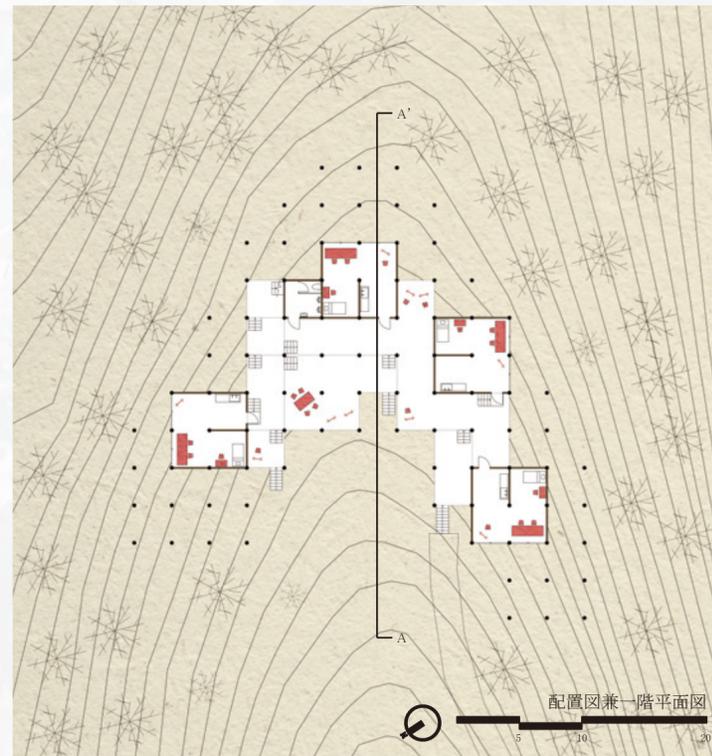
「斜面地に対する土木と建築の空間提案」

敷地は樹木が生い茂る谷地の斜面地であり、この土地は地すべりの危険性があるとして土砂災害警戒区域に指定されている。そんなこの場所では地すべりを未然に抑制する抑止杭工を土木建築とし、建築の空間として集落とは少し離れ自然に囲まれた場か所でアート活動ができるアトリエを提案する。

杭の配置を建築を構成する柱の間隔として利用し、建築の空間として計画する。地すべりを未然に予防するとともに自然に囲まれた環境で制作活動が行えるような空間体験を生み出す。

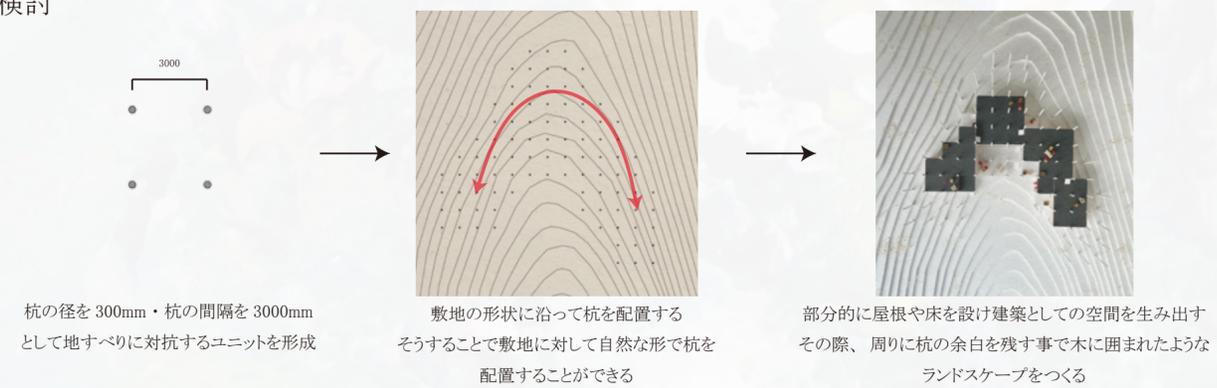


2.3 図面計画



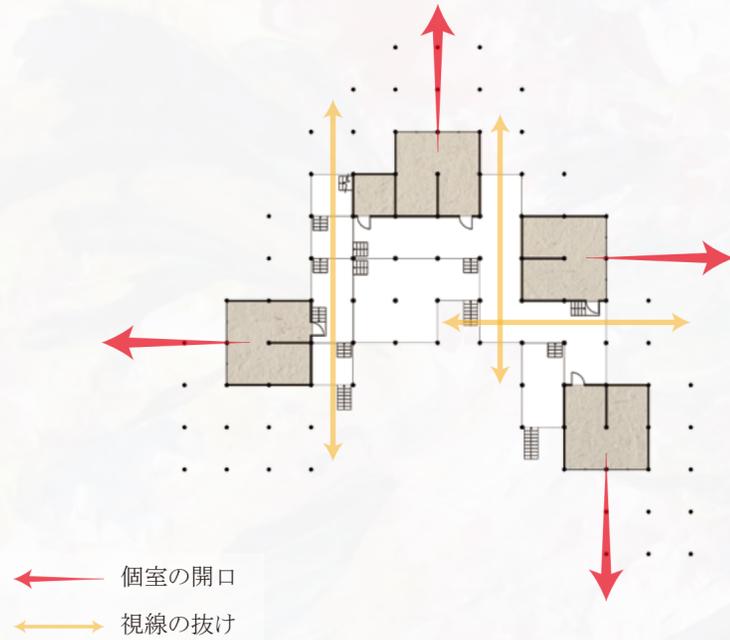
2.2 ダイアグラム

■ 構造検討



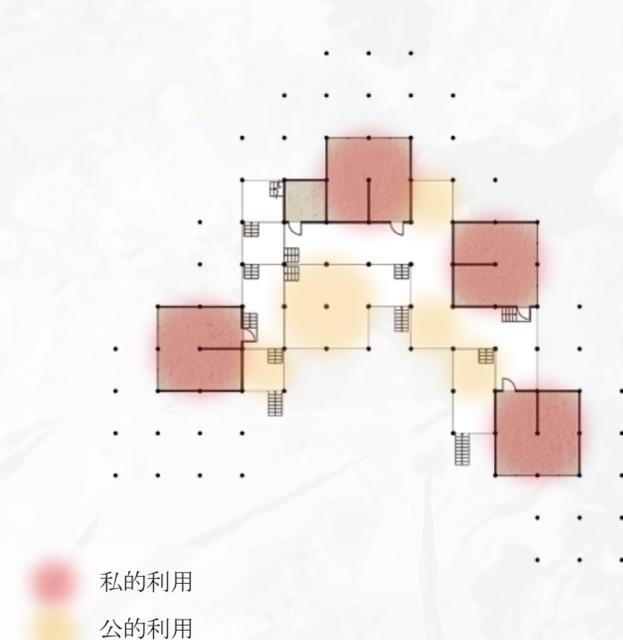
2.4 空間構成 - 空間つくる3つの操作 -

I. 視線操作



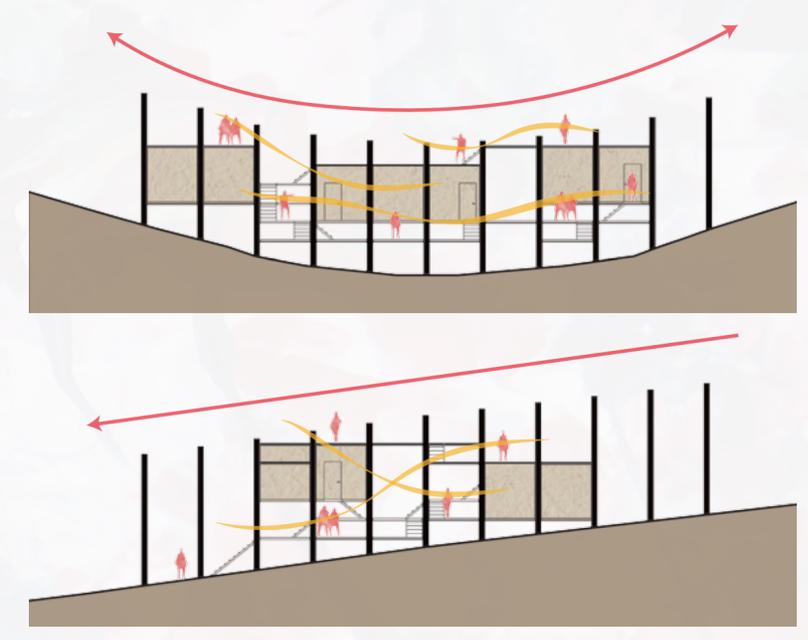
貸しアトリエの開口はそれぞれ違う方向に開き、個人活動の場として利用できるようにする。
また森の中にあることを考え、視線の抜けをつくることで森と一体化したような空間をつくり非日常的な体験のできる場として提案する。

II. 私と公



私的利用空間である貸アトリエを分棟のように配置し、それを繋ぐように公的利用のフリースペースを配置する。そうすることで多くの人が関わり合うアート活動の空間をつくる。

III. 高さ方向の操作



地形の変化に合わせて床の高さを変える。高さ方向にずれをつくることで、それぞれの様子を互いに認識することができ関わりが増加する場を建物全体で作り出す。
また杭を地形に合わせてながら建てることで、森の木々と建築が一体化するように計画する。



— 視線が抜ける —

森の中にあるアトリエ
視線も風も抜け自然を感じる



— 小さな展示会 —

まるで自分たちの美術館
作品をきっかけに会話が生まれる



— 青空の下で —

場所にとらわれずのびのび過ごす
非日常的な体験の場所となる



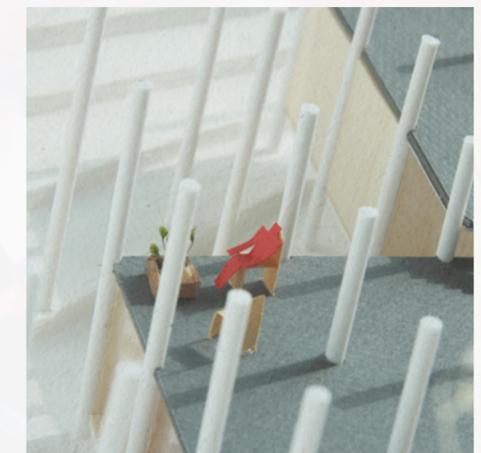
— 「久しぶりだね」 —

アート活動だけの場所ではない
集落の人や移住者、様々な人が集う



— 「今日は何する？」 —

週末にみんなで集まる
アート活動をきっかけに交流が深まる



— 優雅な休日を —

屋上でちょっと息抜き
自然の中でのんびり過ごす